



Reitaku Overseas Development Association RODA ニューズレター

一般財団法人 麗澤海外開発協会 会報

平成28年
(2016年)
7月25日

第21号

第14巻 第1号
年2回発行

主な記事

巻頭 会長挨拶（廣池幹堂）

報告 タイ・スタディツアー報告/平成27年度事業報告

その他 学生プロジェクトの活動報告

会費・竹原基金等の報告と振込先等のご案内

発行所：一般財団法人麗澤海外開発協会

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL. 04-7173-3165 FAX. 04-7173-8953

<http://www.reitaku.or.jp>

発行人・木下廣太郎／編集人・横山守男

人が育ち、心の通い合う国際協力を進める

一般財団法人 麗澤海外開発協会

会長 廣池 幹堂



麗澤海外開発協会は、「開発途上国において文化・経済の発展に協力するため、国際協力活動を通じて、世界の平和、人類の安心と幸福の増進に寄与すること」を目的に、昭和46年（1971）に外務省所管の財団法人として設立しました。以来40年以上にわたり、微力ながらも開発途上国への貢献活動に取り組み、平成25年4月には新たに内閣府より「一般財団法人」として認可されました。今日までご支援を賜りました多くの皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

現在は、主にタイ、ラオスにおける教育支援、ネパールにおける医療支援、海外での自然災害に対する緊急支援等を推進しております。また、昨年4月25日にネパールで発生した大地震の被害に対しては、いち早く緊急支援を行い、併せて緊急募金を行い、当協会との関係の深いネパールの「よもぎの会」と「アネコット村」に対して支援しました。

当協会では、アジアの子供たちのための奨学金制度「竹原基金」も設置しています。当協会の副会長でラオス出身の竹原茂・麗澤大学名誉教授の名前を冠した基金で、この基金を生かして、貧困等の理由で学校へ通えないアジアの子供たちへの教育支援を進め、平成26年度よりアジアからの留学生も招聘しています。昨年度の9月からはラオス国立大学の女子大学生サイヤリン・プッタソンさんが麗澤大学の別科日本語研修課程で学び、今年9月には新たに大学生1名を留学生として招聘します。併せて昨年度は、ラオス国立大学文学部日本語学科図書館へ日本語の書籍（580冊）を寄贈しました。

また、ボランティアの一環として、タイ、ラオス等におけるスタディツアーも実施しています。このツアーには学生・生徒・青年たちが参加し、訪問国の人たちとの交流や現地での生活体験を通して国際協力への理解を深めています。

このように、ささやかではありますが、「世界の平和、人類の安心と幸福の増進」に寄与するため、これまでの経験と実績を踏まえて若い世代の育成にも貢献し、心の通い合う国際協力をいっそう推進していきたいと念願する次第です。

第12回 タイ・スタディツアーを開催



平成28年2月16日～24日（チェンライ、チェンマイ、バンコク）



平成28年2月16日から24日までの9日間、麗澤海外開発協会では第12回のタイ・スタディツアーを開催しました。一行は主に、当協会が長年にわたって支援し関係を築いてきたタイ北部のメーコック財団（※1）や、ルンアルン（暎）プロジェクト（※2）に滞在しました。期間中はタイの文化に触れ、子供たちとの交流やボランティア活動を行う中で、さまざまな体験と学びを得たツアーとなりました。

麗澤大学の学生を中心とした8名のツアー参加者にとって、それぞれが事前研修で調べたテーマにそって現地で見聞きして感じたことを元に、これからの自分に何ができるかを考える機会となり、意義深い旅となりました。



子供たちと交流する学生参加者



メーコック財団でのボランティアでトイレサインを作成しました

メーコック財団（※1）

1991年にタイ北部において観光による地域の発展のための活動をしていたピパット・チャイスリン氏が、竹原茂副会長等の協力のもとに立ち上げた「現地の問題解決と生活の質の向上」をめざす団体。現在は21名の子供たちが支援を受け、共同生活をしながら通学している。



標高1,100mの山の上にある有機コーヒー農園を訪問



ルンアルンプロジェクトの研修生、スタッフとの交流会

ルンアルン（暎）プロジェクト（※2）

代表の中野穂積氏が山岳民族の中高生を対象に、安定した生活と職業訓練の機会を提供するため1987年に設立。30年近く共に生活しながら、生徒たちの仕事、登校、学習などを指導・支援している。近年は職業訓練プログラムを行い、4名の青少年が学校外教育を受けている。また有機農法によるコーヒーの栽培と販売を通して、地域の持続可能な生活向上をめざして活動している。

学ぶ



山岳民族の通う学校で、タイ北部での麻薬問題の現状を学ぶ

タイで実際に活動する方々の生の声から、タイの社会情勢の現実を学びます。

インターネットで情報があふれる現代において、実際の声を聞くことは、正確な現状を知る貴重な経験となります。

体験する



標高1,100メートルのコーヒー農園にて、生のコーヒーの実を食べる参加者

滞中には、さまざまな文化を体験します。日本ではできない体験によって、異文化への理解を深めます。

標高1,100メートルのコーヒー農園を訪れたり、毎年人気の象のり体験もあります。

感じる



作業に励むツアー参加者

現地の子供たち、同年代の学生との交流を感じて、自分自身、そして、日常生活を送る日本について、客観的に考える機会になりました。

期間中に行うボランティア活動では、作業を通じて、それぞれが国際協力について考える機会にもなりました。

つながる



学生参加者のリーダーからメーコック財団の学生へドネーションを手渡し

これまでの援助等を通じて築いてきたつながりを深めることはもちろんですが、参加者それぞれが新たなつながりをつくり、これからの国際協力を考える機会となりました。

滞在期間中にツアーに参加された皆様からのドネーションを、メーコック財団の生徒にお渡ししました。

麗澤大学 国際交流・国際協力専攻 1年 木原 秀佳（写真右）

現地の子供たちは、親がいても一緒に生活できなかつたり、また親がいなかったりして、私たちの当たり前がそうではなく、そんな中でも自分自身がやるべきことは毎日こなして、毎日楽しく生活しています。そんな人たちの生活を目の当たりにして、わがママを言っている場合ではないなと心から思ったし、感謝という言葉を使うけれども、簡単に使っていたなと思い、自分自身について考え直すことができました。

9日間はとても短い期間だったけれども、毎日がとても充実していて、また普段よりも考えることが多く、ほんとうに多くのことを吸収できました。タイに来て、改めて日本のよさを実感できたり、また見習わないといけない所やタイで生活していく中で自分自身の壁に直面したときに自分の弱さを見つけることができたり、これからもっと成長していく中で成長の種を、タイで新たに見つけることができました。

今回学んだこと、現地で素直に感じたことなどを忘れずに、これからの自分につなげていきたいと思っています。タイについても、もっと深く知りたいと思うし、ここだけではなく、幅広く関心を持って学んでいきたいと思っています。



タイの大学生と交流をする木原さん(写真左)

麗澤大学 国際交流・国際協力専攻 1年 林 萌生（写真右）

今回、たくさんの方々からお話を聞く機会があった。実際にタイで生活している人からしか聞くことのできないようなお話をたくさん聞くことができた。

私はお話を聞く前に、「タイ政府は、少数民族に対する対応がひどい」「もっと親身になって、もっと生活のしやすい環境を作ってあげればいいのに」と思っていた。でも、ただ少数民族が生活のしやすい環境を作るのではなく、昔の少数民族の生活を守る必要もあるのだと考えが変わった。少数民族の家に家電が増えていることは良いことなのだろうか。生活しやすい環境に近づいてはいるけれど、昔の少数民族の生活を守ることは、どんどん難しくなる。「何が正しくて、何が悪いのか」ということを考えると、とても難しいことだと思った。

また、国籍のない外国人でも生活することができるタイは、日本よりも生活しやすい環境なのかなと思った。受け入れる側に、何か受け入れるメリットがなければ、受け入れをするのは難しいことだと学んだ。そして、関口輝比古さん(国際労働財団タイ事務所所長)からのお話を聞いて、人身売買は本当にあるということを知った。調べただけでは、どこか遠い話のような気がして、本当にあるのだろうか思っていた。人身売買も昔とは形態が変わってきているらしく、その時の状況や状態、ニーズに合わせた活動をしていく大切さを改めて感じた。

今回、タイに行って、「少数民族について何を知ることができたのだろうか」と考えると、よく分からない。とても楽しかったし、たくさんのことを学ぶことができた9日間だったと思う。タイスタディーツアーに参加したことは全く後悔していないし、参加して本当に良かったなと思っている。

ツアー参加者の声



アカ族の伝統的な刺繍をした林さん



麗澤大学国際協力ゼミ“Plas+”が カンボジアで出前授業を実施

平成28年3月15日から25日まで、麗澤大学カンボジア国際協力ゼミPlas+（プラス）に所属する学生6名は、第2回カンボジア研修を行い、主に麗澤海外開発協会が関わっているカンボジアの小学校3校を訪れ、出前授業（理科、言語〈日本語・英語〉、交通安全、体育、日本文化、夢の6教科）を行いました。



麗澤海外開発協会の支援で建設された
ベン・ロヴィア・レー小学校前での参加学生



※

トラム・クラ小学校（全校児童数141名・教員数4名／開校2005年2月25日）

アンコール遺跡等の拠点となっているシェムリアップから約3時間のところにあるトラム・クラ小学校では、3月17日に低学年を対象に「理科（科学）」（1年生）と「言語（英語・日本語）」（3年生）の授業を行いました。

理科では、準備不足の点もありましたが、子供たちは科学に触れ、わくわくした顔で実験を行ってくれました。みるみるうちに液体から固体に変わるスライムに興味を持ち、シャボン玉を慣れた手つきで楽しんでいました。



理科（科学）の授業でのひとコマ



言語の授業

〈授業を担当して感じたこと〉 大久保佳織・森田遼太郎

子供たちは、初めて見る外国人に警戒心を持ったためか、最初は緊張していましたが、授業を進めていくうちに笑顔を見せてくれるようになりました。さらに昼休みには、一緒に汗を流して遊んだためか、そこでも打ち解けることができました。

今回行った私たちの出前授業が、子供たちの将来に直結していくかどうかは分かりませんが、これをきっかけに子供たちが「新しい興味」を持つことができたらうれしいです。

ベン・ロヴィア・レー小学校（全校児童数163名・教員数3名／開校2011年9月15日）

麗澤海外開発協会が建設に携わったベン・ロヴィア・レー小学校では、3月18日に全校児童対象の「交通安全」と体育（運動会）の授業を担当しました。

「交通安全」では、絵などを用いて授業を開始。事前にクメール語で書いた問題を用意して〇×クイズを実施しました。各自が正解だと思うほうに移動するという、体を動かしながらのゲームに大いに盛り上がりました。

体育では、全校児童を6チームに分け、紅白対抗の運動会を行いました。大縄跳び、ペアリレー、チーム対抗リレーの3種目を行い、前半は白組が勝っていたにもかかわらず、最後には紅組が大逆転で勝利し、大成功の運動会となりました。



交通安全の授業



体育(運動会)

〈授業を担当して感じたこと〉 村瀬朱里・市川舞夏

交通安全については、村の交通情報を十分に理解し、それに伴った出題問題を考え直す必要があるように感じました。授業の中で、子供たち自身が自分で理解して動く場面や、上級生が下級生に教える場面があり、教育的成果はあったように思います。

運動会については、そこで使用する主要な単語だけは暗記する必要があったと感じました。そうすれば、子供たちとより深いコミュニケーションがとれたと思います。次回は、よりグレードアップした授業が行えるように事前の準備を十分にしていきたいと強く感じました。

トム・オー小学校（全校児童数175名・教員数4名／開校2008年2月28日）

3月19日、都市部のシムリアップから険しい道のり(ゴム林)を経て到着したトム・オー小学校では、「日本文化」(「日本の四季について」と「七夕体験」)と「夢」の授業(共に1年生)を担当しました。

「日本の四季について」は、紙芝居を使用する講義型で行い、「桜」や「もみじ」「いちょう」の造花を子供たちに見せ、よりイメージしやすいように工夫しました。「七夕体験」では、七夕の由来を紙芝居で説明し、事前に用意していた「笹の書いてある模造紙」や短冊を使って子供たちに七夕を体験してもらいました。最後に数名の代表児童が自分の書いたものに関して発表し、完成した七夕の模造紙は小学校へ寄贈しました。

「夢」(自分の将来の夢を絵で描こう)の授業では、まず私たちが事前に書いてきた絵を使い、自分たちの夢を発表しました。そのあとで子供たちに紙を渡し、自分の将来の夢を自由に描いてもらいました。そして自分の夢を発表したい子供は、みんなの前で発表してもらいました。回収した紙は、カンボジアの子供たちの将来の夢の傾向を集計するために使用する予定です。



模造紙の笹にみんなの願い事を



夢の授業では代表生徒が発表をしました

〈授業を担当して感じたこと〉 大塚桃香・宮崎 杏

カンボジアの中でも田舎といわれる地域にある学校ですが、校舎自体はしっかりしていて、校庭は広いように感じました。しかし、学校の門や塀が木造のため、子供たちへの安全性に欠けているように思いました。学校の周りには雑草が生い茂っていて、区域の境目が分かりにくく、子供たちが遊びなどに夢中になると、境目に気づかないまま道路に飛び出してしまうのではないかと危惧しました。トム・オー小学校には、門や塀などの物資的な面での援助が必要ではないかと痛感しました。

麗澤大学生がネパールで現地調査とボランティアを行う

麗澤大学国際交流・国際協力専攻の学生（2年）がプロジェクト型学習を軸に自主企画ゼミナール（G9）を結成、その中の4名の学生（大垣直哉・榎山万葉・黒田蘭・長井理緒）は、そのプロジェクトを展開する地域をネパールと定め、平成28年2月16日から26日まで、国際協力の可能性を探るため、麗澤海外開発協会の支援も得てネパールを訪問しました。

ネパールでは、昨年4月25日にマグニチュード7.8の大地震が発生し、カトマンズを中心に多大な被害をもたらしています。学生チームは2月17日から25日までの間、カトマンズを中心とした被災地を調査し、現地の人々との積極的なコミュニケーションを図り、小中学校におけるボランティア活動も行いました。



ボランティア活動を行ったシタパイラ村の小中学校の前で

〈ボランティア活動〉

① 日本文化の紹介授業

カトマンズ市内から車で30分ほど西に位置するシタパイラ村の小中学校2校を訪問。現地の生徒と交流しながら、紙芝居を用いた日本文化の紹介授業を実施。また、日本の玩具や箸、折り紙などの日本文化も体験してもらった。

② 仮設校舎のペンキ塗り

シタパイラ村の小中学校での仮設校舎のペンキ塗り作業を行った。この活動は、雨などによる鉄製の骨組みの劣化等を予防する効果が期待される。



〈被災地の調査〉

震災によって大きな被害を受けたカトマンズ市内の世界遺産や市街地での視察を実施。ダルバール広場や長い歴史を持つ寺院等を見学したが、完全に崩壊していたものや、一部倒壊のものも多く見られ、震災の被害の深刻さや観光産業に与えた影響を、自分たちの目で実際に確認することができた。また、カトマンズ市内にある国立トリブバン大学も訪れ、主に大学の広大な敷地と図書館を視察。震災の影響を直接確認することができたが、国立の機関のため、政府の援助に頼らざるを得ず、政府が復興政策を実行に移すのを待つしかない状況にある。

〈現地活動団体訪問〉

2月22日、カトマンズ市内にある Transparency International Nepal を訪問。特に汚職防止に取り組んでいる国際的な非政府組織で、市民を対象に腐敗防止への啓発活動等を行っている。被害状況を伺った後、復興の遅れやネパールが抱える問題、改善への取り組み等についてお話しいただき、ディスカッションも行った。2月23日には、カトマンズ市内にある JICA のネパール事務所を訪問。ここでは、震災の復興状況やネパール社会の動き、またそれらに対する JICA ネパール事務所の対応等について説明していただき、日本の国際協力的一端を感じる有意義な時間となった。

— 平成27年度 事業報告 —

1. 支援事業への助成について

- (1) タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の児童に対して生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を行った。
- (2) 同チェンライ県で、農業技術支援と教育支援を行っている「ルンアルン（暁）プロジェクト」に助成した。
- (3) 東南アジアからの留学生への教育支援を行った。
 - ① 麗澤大学別科日本語研修課程ヘラオス人留学生サイヤリン・プッタソーンさんを受け入れ（9月より1年間）、学習成果を上げた。
 - ② 麗澤大学で受け入れているブータンからの留学生に対し、麗澤大学国際交流センターと連携をとりながら支援を行った。
- (4) ラオス国立大学文学部日本語学科図書館へ日本語の書籍（580冊）を寄贈した。

2. 緊急支援について

- (1) 平成27年4月25日にネパールで発生した大地震の被害に対して、緊急支援を行い、併せて緊急募金を募り、当協会との関係が深いネパールの「よもぎの会」と「アネコット村」に支援した。

3. スタディツアーの実施について

- (1) 東南アジア諸国で活動する支援団体等の現状を視察し、ボランティア研修を通じて海外NGO活動に対する理解を深めるためにスタディツアーを実施した。
 - ① タイ・スタディツアー
 - ・訪問先 タイ（メーコック財団、ルンアルン（暁）プロジェクト）
 - ・日程 平成28年2月16日～2月24日（9日間）
 - ・参加者 10名（引率：木下事務局長事務局員、益田事務局員）
 - (2) 麗澤各校が主催するタイ・スタディツアーへの支援と協力を行った。
麗澤大学 期間：H27/8/20～8/29 麗澤高等学校 期間：H27/12/20～12/28
 - (3) 麗澤大学外国語学部国際交流・国際協力専攻（IEC）の学生が企画したツアーへの支援と協力を行った。
 - ①国際協力ゼミ“G9”ネパール大地震の復興ボランティア活動 期間：H28/2/16～2/26
 - ②国際協力ゼミ“Plus+”カンボジアの小学校におけるボランティア活動 期間：H28/3/15～3/25

4. 研究・調査について

- (1) ネパールを訪問し大地震後の現状視察を行い、今後の復興計画等についての打合わせを行った。
訪問先：ネパール（よもぎの会、アネコット村） 期間：H27/10/10～10/18 訪問者：木下事務局長

5. 広報活動について

- (1) ニューズレター第19号（平成27年7月10日）、第20号（発行日：同年12月20日）を発行した。
- (2) ホームページを更新した。

平成27年度 正味財産増減計算書

(単位 円)

6. 出展活動について

当協会の活動に理解や支援者を募るため、会員の募集や写真展示等を行った。

- (1) 「伝統の日・感謝の集い」

7. 賛助会員等の募集状況について

- (1) 賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

- ① 賛助会員 165件
(個人153件、団体12件)
- ② 準会員 49件
- ③ 寄付金 144件
- ④ 竹原基金 85件
- ⑤ ネパール緊急募金 72件

経常収益の部		経常費用の部	
①基本財産運用益	220,645	I 事業費	
②賛助会員受取会費	2,630,000	①海外旅費	1,730,495
③準会員受取会費	110,000	②広報活動費	209,520
④受取寄附金	1,331,759	③図書資料費	10,320
⑤受取竹原基金寄附金	738,700	④消耗品費	28,038
⑥受取災害義援金	971,000	⑤通信運搬費	77,269
⑦受取ツアー参加費	1,200,000	⑥雑費	138,026
⑧受取利息	1,467,393	⑦緊急援助費	1,960,000
経常収益合計	8,669,497	⑧支払助成金	1,963,613
		事業費合計	6,117,281
		II 管理費	1,890,981
		経常費用合計	8,008,262
		当期正味財産増減額	661,235

たくさんのご支援、ありがとうございます

＜平成27年度＞ 掲載に同意された方をご紹介します(順不同)

■会費

廣池幹堂, 甲良昭彦, 木下廣太郎, 関哲夫, 山口明, 大橋政夫, 野田ミート(株), 長谷和治, 竹原茂, 土谷和光, 大河原良雄, 所一彌, 荒木郁雄, 林正勝, 栗山清和, 高松宇佐雄, 横山守男, 杉浦廣道, 小松務, 山本祥子, 大山寿々枝, 柏谷康博, 橋本半兵衛, 今井收, 大谷誠之, 宮脇常夫, 望月靖子, 横山印刷(株), 合資 川貞商店, 館林正孝, 田島正幸, 石渡英雄, 大村金三, 長谷篤治, 山田雅雄, 佐藤薬品工業(株), 山本浩, 小野剛, 松本哲洋, 小西直之, 藤村薫, 古川定邑, 俣野幸昭, 桑島義智, (株)小松製菓, 小山松男, 黒川洋, (株)スーパーバリュー九州本部, 横尾昭男, 小嶋義佑, 前田三作, 和田悦治, 長谷川和子, 東海林新彦, 井上源一, 三木実, 河村満, 堀内一史, 太田徳昭, 今木康之, 増田一江, 井上源次, 小林雅純, 中川千恵子, 伊東俊太郎, 大内栄三, 永治達彦, 雲丹亀宏明, 島田京子, 濱井利一, 上田通泰, 野田雅義, 福井博康, 桑島朋子, 平塚靖永, 須見好和, 有限会社 弘明堂, 上田敏子, 宮川登志司, 上田豊, 松岡孝終, 木津孝道, 熊木亜夫, 松本彰夫, 澤田栄作, 堀勝三郎, 岸上肇, 菅間正則, 山本栄道, 長谷真千子, 村瀬泰比古, 岩田英志, 大上正, 井川好長, 山口秀正, 横山明弘, 黒白常光, 菅澤運一, 藤尾侑男, 田中一宏, 沖野二郎, 北川治男, 鈴木貞夫, 森口真美, 淡島成高, 八代京子, 永治真樹, 肥塚憲造, 森田武志, 青木久子, 世田谷北沢モラロジー事務所, 伊藤温夫, 結城保, 赤井和行, 赤松良平, 伊藤豪人, 田口英樹, 渡壁照明, 増田つかさ, 伊藤喜見子, 小牧モラロジー事務所, 加藤純一, 関口輝比古, 三原モラロジー事務所, 中津モラロジー事務所, 山田荘一, 砂内一伸, 加藤知泰, 細野眞, 益田晴華

■準会費

林正勝, 野田好秋, 望月敏雄, 阿折淑子, 小西幹夫, 高野橋孝治, 望月省二, 須見好和, 杉生ウタエ, 俣野喜代美, 佐藤惇, 林善介, 大山圭子, 長谷英治, 長谷憲治, 長谷美世子, 岡田宙子, 橋本賢三, 乙部完司, 行本まり子, 堀口栄一郎, 三浦順治, 山添ほのか, 安田誠一, 野川裕史, 尾崎哲子, 岩永和美, 前田憲一, 鈴木孝明, 林萌生, 木原秀佳, 桑原和香奈, 高坂真美, 高畑仁志

■一般寄付金

廣池幹堂, (株)ピアかざりや, 長谷和治, 渡辺康博, 栗山清和, 山本祥子, 宮脇常夫, 横山印刷(株), (株)ダイキョーブラザ, 所一彌, 田島正幸, 長谷篤治, 山田雅雄, 發坂卓雄, 大垣モラロジー事務所, 野田好秋, 俣野幸昭, 山崎純雄, 前田三作, 杉山直, 神田出, 和田悦治, 長谷川和子, 東海林新彦, 三栄工業 株式会社, 今木康之, 上田通泰, 大住敬一, 福井博康, 池田千栄子, 石黒美恵子, 荻野益男, 井上照悟, 木津孝道, 山本栄道, 木崎重安, 菅澤運一, 大山圭子, 橋本賢三, 堀口栄一郎, 沼野文子, 山田武司, 北敬子, 沖野二郎, 森口真美, 八代京子, 鈴木孝明, 永治真樹, 小野義仁, 青木久子, 伊藤温夫, 増田つかさ, 飯島孝夫, (株)ダスキン東横, 三上ハツミ, 中津モラロジー事務所, 早乙女静子, 柿本勇人, 影山浩子, 笠田環嗣, 勝矢啓司, 加藤信次, 上萩洋三, 小林安子, 佐藤徳高, 澤田修一, 鋤柄誠治, 関俊章, 高坂賢吉, 富松哲次, 内藤元彦, 長尾小静, 西村秀喜, 藤田和弘, 増田顕次郎, 三浦洋嗣, 三笠忠克, 光安輝雄, 森与喜男, 油谷信俊, ファッションハウスたかさご, 一宮中モラロジー事務所, 船橋モラロジー事務所, 大阪和泉モラロジー事務所, 大阪東淀川モラロジー事務所, 小山モラロジー事務所, 静岡県モラロジー協議会女性クラブ, 伊達モラロジー事務所, 高松モラロジー事務所, 南国モラロジー事務所, 新潟モラロジー事務所, 大阪旭モラロジー事務所, 宮城県北部モラロジー事務所, 四日市西部モラロジー事務所, 廣池学園 まんりょうの会

■竹原基金

廣池幹堂, 山口明, 長谷和治, 竹原茂, 所一彌, 荒木郁雄, 栗山清和, 高松宇佐雄, 山本祥子, 大山寿々枝, 柏谷康博, 橋本半兵衛, 宮脇常夫, 土谷和光, 田島正幸, 長谷篤治, 山田雅雄, 發坂卓雄, 山本浩, 野田好秋, 俣野幸昭, 桑島義智, 小嶋義佑, 前田三作, 和田悦治, 長谷川和子, 東海林新彦, 堀内一史, 濱井利一, 上田通泰, 福井博康, 荻野益男, 桑島朋子, 俣野貴昭, 三木実, 山川香, 松岡孝終, 山本栄道, 俣野智美, 大山圭子, 竹原俊広, 三浦順治, 沖野二郎, 八代京子, 岩永和美, 永治真樹, 青木久子, 伊藤温夫, 山田荘一, 片山道則, 加藤翠, 橋高重久, 桑島祥子, 小林一正, 鋤柄誠治, 長谷川卓司, 藤田和弘, 松井さだ子, 三浦洋嗣, 支援キルトの会ふーぷ, 浜松西モラロジー事務所, 麗澤大学プアンサークル同窓会

■ネパール義援金

廣池幹堂, 木下廣太郎, 関哲夫, 長谷和治, 栗山清和, 柏谷康博, 橋本半兵衛, 山田雅雄, 發坂卓雄, 澤田栄作, 小野剛, 野田好秋, 俣野幸昭, 桑島義智, 長谷川和子, 東海林新彦, 井上源一, 小林雅純, 中川千恵子, 濱井利一, 俣野貴昭, 村瀬泰比古, 横山明弘, 河村満, 俣野智美, 大山圭子, 岡田宙子, 沖野二郎, 森口真美, 淡島成高, 鈴木孝明, 青木久子, 松岡孝終, 伊藤喜見子, 小林一正, 我妻けい子, 我妻美奈子, 池田千栄子, 神田茂, 内藤元彦, 中津川達雄, 藤田和弘, 三浦洋嗣, 三上ハツミ, 大山寿々枝, 相生モラロジー事務所, 岡山モラロジー事務所, 京都東山区モラロジー事務所, 札幌豊平モラロジー事務所, 福岡モラロジー事務所, 瑞浪うなぎ登りの会

《会員・準会員募集中》

麗澤海外開発協会は皆様からお寄せいただいた会費や寄付金によって活動しています。

会員および準会員を募集していますので、是非ご入会いただきますようご案内いたします。

種類	年額
会費	1口1万円(1口以上)
法人会員	1口1万円(1口以上)
準会員	1口2千円(1口以上)
寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164

名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会

※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567

名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会

一般財団法人

麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL: 04-7173-3165

FAX: 04-7173-8953

E-Mail: kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

HP: http://www.reitaku.or.jp/



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものといたしますので、ご了承ください。